

持続可能性の高い島へ挑戦する脱炭素化構想

～エネルギーの自立で「ないものはない」を実現～

代表提案者

株式会社海士パワー

協同提案者

海士町

人口減少や少子高齢化が進む中、離島の課題でもあるエネルギーの自立化が重要となってきた。本構想では、限りある人や資源を活用して、脱炭素化を実現する生産や移動のしくみをつくるとともに、災害に強い経済・社会基盤の根幹となるエネルギーの自立化に向けて挑戦していくことを課題と捉え、本構想を策定した。

リーディングプロジェクト 3

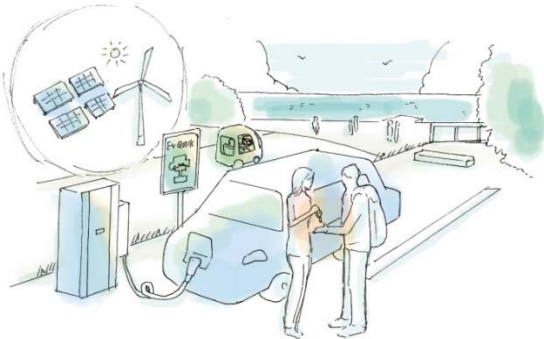
海士クリーンエネルギー・ライフトーププロジェクト

- 3-1 防災拠点施設への再エネ設備の導入
- 3-2 水素エネルギー利用システムの導入

リーディングプロジェクト 1

海士の交通プロジェクト

- 1-1 電動モビリティの推進
- 1-2 モビリティシェアリングの推進



- 車輻の電化、充電設備の設置、シェアリング
- 島の玄関口菱浦港での取り組みのアピール



■ 集落の防災拠点への太陽光発電及び蓄電池、水素エネルギー供給システムの導入

リーディングプロジェクト 2

海士の木材使い切りプロジェクト

- 2-1 伐採木の熱利用
- 2-2 剪定枝・草本・竹の完熟堆肥化とフル活用



■ 温泉源泉地での新燃料によるバイオマス熱利用

